

2018年1月24日

報道関係各位

公益財団法人 国際高等研究所

国際高等研究所「けいはんな“エジソンの会”」第18回会合の開催について
今回のテーマ：AI、IoT、ビッグデータの進展により医療はどう変わるのか

公益財団法人国際高等研究所（木津川市、理事長 立石義雄、所長 長尾真）は、けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するための立地機関によるコミュニティの形成と、この街ならではの基幹技術・基幹産業の確立を目指して、「けいはんな“エジソンの会”」を開催しています。

具体的な「オープンイノベーション」の成功事例を造り込むだけでなく、けいはんな学研都市のコアとなる科学技術ドメインを確立することで、世界をリードするサイエンスシティを目指しています。この度、第18回会合を下記の通り開催いたします。

【開催概要】**◆日時** 2月20日（火）13：30～19：30**◆場所** 国際高等研究所レクチャーホール（木津川市木津川台9丁目3番地）**◆参加者** けいはんな学研都市の立地機関を中心に50名程度**◆プログラム**

13:30-14:50 「ビッグデータとAIがもたらすこれからの医療」

大江 和彦 東京大学大学院医学系研究科医療情報学分野教授

15:00-16:20 「医療におけるIBMワトソンの取り組みとWatson Healthの事例」

西野 均 日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所研究開発ビジネス開発部長

16:30-17:50 インタラクティブ・セッション

18:00-19:30 懇親会

◆参加費 5,000円 **◆定員** 50名、18歳以上**◆申し込み方法** 高等研HP <http://www.iias.or.jp/communication/edison> よりお申し込みください。

※当会合は一般参加者を受け付けております。当会合開催の告知記事のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。また、報道関係者の皆様もご参加いただけます。この機会に是非ご取材いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

報道関係者の参加申し込みについて別紙返信用FAX用紙もしくはメールにて、2月19日（月）までにご連絡をお願いします。

なお、報道関係者の皆様の参加費については無料です。

（本件に関する問い合わせ先）

公益財団法人国際高等研究所 広報課 森口 有加里

TEL: 0774-73-4000 FAX 0774-73-4005 携帯:090-4288-4001 E-mail: kouhou@iias.or.jp

○「けいはんな“エジソンの会”」の目指すところ

けいはんな学研都市が標榜する「立地機関間の連携とそれによる成果の創出」を促進するため、高等研が知的ハブとしての役割を果たすとともに、立地機関の研究者や技術者のコミュニティを形成し、具体的な「オープンイノベーション」の成功事例の確立に寄与することを目指しています。

取組みの核となる科学技術シーズの領域を人工知能～AI とし、2017 年度からは、AI について具体的な出口を見据えた研究開発を実践するために必要な内容を掘り下げて提案していくことに主眼を置き、研究機関や企業に属する様々な立場にある方々が、自ら AI を中心としたテクノロジーを活用し、具体的な製品、サービスを生み出すことができるようになるためのテーマ設定をしていきます。

具体的には AI とそれを取り巻く技術の最新動向を掘り下げて解説する「テクノロジー」編と、様々な分野における AI を駆使した最先端のソリューションや AI の活用に係る課題を扱う「システム・社会」編から、テーマを厳選してお届けします。AI を中心とした新たなテクノロジーがどのように活かされ、どのように新たなエコシステムが切り拓かれるのか、様々な分野の研究者や企業の皆様にも大いに参考にしていただけるものと期待しています。

○第 18 回会合の概要

AI、IoT、ビッグデータの進展により、我々を取り巻く医療の世界は劇的に進化しています。情報システム基盤を構築し利活用することにより、AI による病気の傾向把握や診断支援、類似症例患者検索やその可視化、電子カルテからの臨床経過予測、治療方法の共有など、多くの社会的価値を創出することができる可能性が高まってきました。

また、病院から得られる患者の通院に関わる診断データ、診療情報、検査データ、センシング技術により、24 時間取得可能な生体データなどを収集・分析して、患者に健康アドバイスをしたり、カルテ、レセプト、さらなるビッグデータを収集し、情報を組み合わせて分析することにより、個人ごとにカスタマイズされた投薬、治療を行う医療の提供、さらに地域に偏在しない医療の質の向上が期待されています。

第 18 回会合では、日本医療情報学会の代表理事であり、医用人工知能研究会の幹事を務められている大江先生より、医療情報データベースの基盤構築に向けた取組みの最新状況と社会に対する影響や今後の展望についてご説明を頂きます。また、IBM ワトソン研究開発のエキスパートであり、ヘルスケア部門の責任者である西野氏には、医療分野でのワトソンの活用について多くの先進事例を交えながらご紹介頂きます。

ビッグデータと AI がもたらすこれからの医療についての先進事例と今後の展望に触れて頂くことによって、AI を中心にした新たなテクノロジーがどのように活かされ、医療をサポートしていくことが出来るのか、新たな医療への取り組みを学ぶことにより、分野を超えた研究者・技術者、企業の様々な立場の皆様にも非常に興味深く、大いに参考にしていただけるものと期待しています。

○「けいはんな“エジソンの会”」の企画・運営を行う「企画運営委員会」（順不同、16 機関）

- ・ **研究機関**：理化学研究所、産業技術総合研究所、情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所、量子科学技術研究開発機構、国際高等研究所
- ・ **教育機関**：奈良先端科学技術大学院大学、滋賀大学、京都情報大学院大学
- ・ **企業**：西日本電信電話株式会社、サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社、株式会社島津製作所、京セラ株式会社、オムロン株式会社、株式会社国際電気通信基礎技術研究所、日本電産株式会社

○オブザーバー（順不同、9 機関）

- ・ 京都府、奈良県、木津川市、精華町、奈良市、国立国会図書館、関西文化学術研究都市推進機構、関西経済連合会、京都産業 21